ドイツからの招聘者紹介（2010年11月5日）

1）ローランド・ホーン（Roland Horne）
ラインランド・ファルツ州環境情報センター所長。
最も関心あるテーマは、「持続可能な生活スタイルに関するコミュニケーションをいかに行っていくか。」大学卒業後、マスコミ関係の仕事に従事しました。その後 10 年間、ラインランド・ファルツ州環境省の広報責任者として活躍。マインツ市 内の「森の幼稚園」の設立にも貢献。

●ホーン氏の団体
LZU（Die Landeszentrale fur Umweltaufklarung Rheinland-Pfalz ・・・ラインランド・ファルツ州環境情報センター）は、1990 年２月に創設され、現在もラインランド・ファルツ州環境大臣 Margit Conrad の直接の指揮下にあります。
この団体の目的は、市民に環境についての情報を提供すること、市民に環境保護の課題に協力する意識を喚起し、環境に配慮した行動を促すこと、市民に環境政策の理念、目的、手段について教え、幼稚園、学校や生涯学習機関における環境教育への動機付けを提供するなどです。
そして、すべての市民との対話を重視し、 様々な団体、例えば環境保護団体や青年団体、 労働組合、協会、農村女性団体、スポーツ団や大学などとの協力を進めています。エネルギー政策をはじめ環境に効果的に働きかけるには、パートナーが必要であり、インターネットを利用したパートナー作りも進めています。

LZU は、ラインランド・ファルツ州における今後の展開を具体的に描くとこに重点を置いています。
新エネルギー政策に関しても、奨励し、今後の展開に向けて、各個人、企業、住民組織、地域やあらゆるグループが具体的に行動することにより違いが生じることをはっきりと示したいと考えています。

2)ゲルハルト・エプラー(Gerhard Eppler)
（NABU ヘッセン州支部代表、自然保護センター所長）
幼い頃から山歩きに親しみ、早くから自然保護に関わるようになりました。現在ヘッセン州の自然保護委員会副委員長を始め、多くの役職を務めています。自然への興味が若い間に芽生えるという自身の経験から、Bensheim/Bergstraße の自然保護センターの設立にも尽力しました. ダルムシュタット工科大学で生物学と環境プランを専攻した後、同大学の環境学という専攻分野の確立にも寄与しました。現在、ヘッセン州南部の Seeheim-Jugenheim.市の環境評価の仕事をしています。

●エップラー氏の団体

NABU（Naturschutzbund Deutschland ドイツ自然保護協会）は、創立 111 年を迎え、ドイツ全土に約 2000 の地方団体と 45 万人以上の会員を有しています。NABU は、毎年、3 万人以上がボランティアとして参画する動植物の保護活動や、自然体験活動などをドイツ各地で企画、運営している。ヘッセン州 NABU もヘッセンを故郷とする動植物の多様性を守るべく 100 年以上活動を続けており、今日では NABU はドイツ全土にわたって 5000 以上の自然保護地域を管理しています。